

令和6年9月

長

あ お ぞ ら

月

第403号

鹿屋市青少年育成センター

鹿屋市 共栄町 20-1 TEL 31-1138

(鹿屋市教育委員会 生涯学習課)

「なすことによって学ぶ 体験活動のススメ」

鹿屋市立寿北小学校 校長 伊藤 太

以前、県内の少年自然の家に勤務していたことがあります。小中学生が宿泊学習に訪れ、様々な自然体験活動を行います。その中のプログラムの一つに、「カヌー」がありました。このカヌーの活動は、川で10人乗りのカヌーを使い、力を合わせてカヌーを漕ぐという活動なのですが、活動後に子どもたちが次のような感想を寄せてくれました。

- ◆ 潮が引いていった。潮の香りがした。
- ◆ 声を出してタイミングを合わせて漕ぐと、とても進んだ。風を感じた。
- ◆ 潮が引いているのを見て、自然が動いていることを感じた。

自然の中でカヌーを漕ぐという体験を通して、カヌーという活動自体の楽しさや喜びだけでなく、「自然への興味・関心や環境保護への意識の高まり」、「協力することの大切さの理解」、「授業で学習したことの確認や実感」など多くのことを感じたり、気づいたり、考えたりすることができたのだなあと思いました。体験活動には、活動自体が楽しいという効果もありますが、コミュニケーション能力や自立心、主体性、協調性、チャレンジ精神、責任感、創造力、変化に対応する力、異なる他者と協働したりする能力など、“非認知能力”を育む効果があるといわれます。子どもたちが直接自然や人・社会と関わる活動を行うことにより、五感（見る・聴く・触る・味わう・嗅ぐ）を通じて何かを感じ、学んで欲しいと願っています。この感想は、体験した

からこそ持てるものであり、まさに、「なすことによって学ぶ」ことの大切さを改めて感じさせられるものでありました。

また、私が子どもの頃は、遊びは屋外での遊びが中心でした。子ども会活動も活発に行われていましたし、季節ごとの行事や地域ならではの行事に参加する機会や場もたくさんあったように記憶しています。その中で、隣近所の大人や異年齢の人たちとの交流もありました。大人になった今、生まれ育った町では暮らしていませんが、ふるさとのことを気にかけて、懐かしく思うのも、そのような体験があるからだと思っています。

この夏休みに、かのや夏祭りで、神輿を担いだり、踊り連に参加したりした子どもたちがいました。暑い夏の日、そろいの法被やTシャツを着て、汗びっしょりになりながら声を張り上げ、街中を練り歩いた体験は、この夏の思い出として、しっかりと心に刻まれることなのでしょう。そして、その思い出がふるさとを愛する心も育てていくものと思えます。

これからも、子どもたちの豊かな人間性やふるさとを愛する心を育てていくために、学校や地域で「なすことによって学ぶ」機会を大切にしていきたいと思っています。

